

# 大会気運醸成 ～都民・国民を巻き込んだ取組を展開～

## 東京2020大会までの取組

- シティ装飾による開催都市の雰囲気創出や、オンライン配信の活用などで大会を盛り上げ
- 大会を支えるボランティアをはじめ、都民が参加できる多種多様なプログラムを展開
- スポーツの機会創出やアスリートの育成に加え、パラリンピック・ムーブメントを創出

### ① 祝祭・盛り上げ空間の創出

#### <ライブサイト>

○集客型のライブサイト等から転換し、自宅観戦に役立つ大会情報や、競技・選手等を紹介する特設WEBサイトを開設。大会の見どころ等のオンラインライブ配信を実施

➢視聴数累計：**約300万回**



【みんなの東京2020応援チャンネル】



【パラリンピック応援サイト】

#### <シティドレッシング・大規模展示物>

○都内の主要幹線道路、商店街、羽田空港、主要45駅等を大会ルックによるフラッグやバナー等で装飾

○都内各所でシンボルや大会マスコット像等を展示

➢**シンボル6か所、マスコット像13か所、ワードマーク1か所、園芸装飾1か所**



【シティドレッシング（オリンピックスタジアム）】



【オリンピックシンボル（お台場）】

### ② 都民・国民参加プログラムの展開

#### <フラッグツアー>

○オリンピック・パラリンピックフラッグを各地でお披露目

➢都内62区市町村、被災県をはじめ、各道府県を巡回（2016年からの3年間）

#### <メダルプロジェクト>

○金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルに必要な金属を、大会史上初めて使用済み携帯電話等から**100%回収**



【都庁舎での携帯電話等受付10万個突破記念セレモニー】

➢回収個数：**14万5,934個**

#### <ボランティア（シティキャスト）>

○羽田空港における選手のお迎え・お見送りや東京スポーツスクエアでの来場者案内等の活動に**11,913名が参加**（延べ参加者数20,676名）

➢大会後のボランティア活動継続意向：**96.4%**（大会後（9月）に実施したアンケート結果より）



【羽田空港における選手のお迎え】



【東京スポーツスクエアでの活動】

#### <聖火リレー>

○聖火リレーセレモニーをネット配信

➢都内オリンピック聖火リレーで**1,265人**、都内パラリンピック聖火リレーで**585人**のランナーがそれぞれ参加

○大会史上初めてオリンピックトーチに水素活用

### ③大会を契機としたスポーツの裾野拡大

#### <NO LIMITS CHALLENGE>

○競技体験・展示・トークショー等を通して、パラリンピックの魅力を体験・体感できる機会を都内全域で提供（WEB上でも発信）

➢大会までに都内全区市町村で**171回実施**

➢累計来場者数：**約22.5万人**



【NO LIMITS CHALLENGE 体験会】



【NO LIMITS CHALLENGE WEBサイト】

#### <TEAM BEYOND>

○パラスポーツの情報発信や、イベントの実施、企業・団体による取組の後押し等により、パラスポーツ観戦・応援を促進

➢メンバー：**140万人以上**（2021年11月末時点）

➢TEAM BEYOND観戦会累計来場者数：**2,026人**



【TEAM BEYOND 観戦会】



【TEAM BEYOND ロゴマーク】

#### <アスリート育成>

○オリンピックやパラリンピック等への出場が期待される選手を「東京アスリート認定選手」として認定

➢**累計1,486人認定**（2020年度末）



【第1回パラバリエ（R1.6.10）】

#### <パラバリエ>

○パラ応援大使がパラスポーツの魅力等を広く発信

#### 大会後の 主な事業展開

- 装飾物等の東京2020大会資産を「アーカイブ資産」として保管・展示
- 大会時設置した大規模展示物を、大会後は競技会場等にレガシーとして再設置

#### 大会後の 主な事業展開

- 大会に携わったボランティアの活動を支援する仕組みとして「東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）」を構築
- VLNにおいて、幅広い活動に係る情報発信やボランティア同士の交流の場を提供

#### 大会後の 主な事業展開

- パラスポーツ等の体験や対戦ができるイベントの実施のほか、競技大会の観戦機会を提供
- 東京のアスリートの競技力を高め、その経験を地域に還元し、スポーツの裾野拡大等につなげる
- パラスポーツにさらに光を当て、社会に根付かせていくため、パラバリエを再スタート

# II 魅力発信 ～東京の多様な魅力を国内外に発信～

## 東京2020大会までの取組

- 東京の魅力を観光資源として活かし、国内外へ発信
- ハード・ソフト両面でのバリアフリー化を推進
- 文化の面から大会を盛り上げるための多彩なプログラムを展開

### ④ 魅力的な観光資源の開発・発信

#### <ライトアップ>

- 大会100日前などの節目や大会期間中に、競技会場等の都内施設でオリンピックシンボルカラー等のライトアップを実施



【隅田川橋梁群ライトアップ】

#### <ユニークベニューの利用促進>

- 都内のユニークベニューの利用の促進に向けて専用WEBサイトを立ち上げ、情報発信を実施  
➢WEBサイトで紹介しているベニュー数：**69件**

#### <東京都メディアセンター (TMC) >

- 大会期間中、国内外メディアの取材拠点としてTMCを開設。オンラインサービスを基軸に時間・場所にとられない取材支援を行い、東京の魅力や都の取組を発信  
➢TMC WEBサイト閲覧数：**約4,280PV/日**  
➢TMC 施設来場者数：**延べ1,154人**



【オンラインブリーフィング (TMCトーク)】

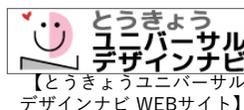


【施設 (TMC有楽町)】

### ⑤ 誰にも優しい滞在環境の整備

#### <バリアフリー情報の発信>

- 都内の施設や交通機関のバリアフリー情報をまとめたポータルサイト「とうきょうユニバーサルデザインナビ (UDナビ)」で情報提供



【とうきょうユニバーサルデザインナビ WEBサイト】

- 大会期間中、都内全会場の最寄り駅、ラストマイル等の情報を掲載

#### <宿泊施設のバリアフリー化推進>

- 国内で初となる一般客室のバリアフリー基準の条例化や、施設整備等に要する経費の補助制度の拡充等を実施



【バリアフリー化された客室例 (京王プラザホテル)】

#### (一般客室の基準)

- ・出入口幅80cm以上
- ・階段又は段を設けないこと
- ・トイレ・浴室等の出入口幅70cm以上 (努力義務75cm以上) 等
- 約3,200室**のバリアフリー客室を確保 (大会までの3年間で約460室から7倍)

#### <多言語対応の充実>

- 主要駅や道路にて日英及びピクトグラムによる表示・標識を整備
- また、大会期間中、「おもてなしガイドアプリ」を活用して、アナウンス等を7言語 (※) で文字配信 (※日、英、中 (繁・簡)、韓、西、仏)【ピクトグラムを追加した道路標識】



### ⑥ 東京文化プログラムの拡充・推進

#### <文化プログラム「Tokyo Tokyo FESTIVAL (TTF)」の展開>

- 多彩な文化プログラムを展開し、東京の魅力を伝える取組を実施



【TURN】

背景や習慣の違いを超えて交流するアートプロジェクト



【サラダ音楽祭】

赤ちゃんから大人まで楽しめる音楽祭

#### <「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」>

- 国内外から応募のあった**2,436件から選定した特別な13の企画**を、オンライン配信も活用するなど工夫を凝らしながらすべて実現



【まさゆめ】

東京の空に「実在する一人の顔」を浮かべるプロジェクト



【東京大壁画】

東京駅前のビルをキャンパスに見立てた、世界最大級の巨大壁画アート

- 実施件数：**約16万件**、参加者：**約3,900万人**

大会後の  
主な事業展開

- 旅行者やMICEの誘致に向けた取組を展開  
・公共施設のライトアップの実施や、地域のライトアップの取組の支援
- ・ユニークベニューの魅力や活用事例等の情報発信をはじめとする利用促進
- 国内外メディアへの取材支援を通じ、大会後も継続してメディアリレーションの強化を図る

大会後の  
主な事業展開

- バリアフリー情報が必要な方に向け、円滑な移動・宿泊滞在のための情報を継続して提供
- 大会に向けて策定した基本的な考え方に基づき、大会後も継続して多言語対応を推進

大会後の  
主な事業展開

- 文化プログラムの成果を踏まえ、新たな文化戦略を策定予定 (2030年度までの文化政策の方向性)  
・誰でもどこでも気軽に芸術文化を楽しめる取組の強化
- ・コロナ禍で生まれた新たな楽しみ方を拡大等

# III 復興・防災 ～被災地の復興や東京の防災力を発信～

## 東京2020大会までの取組

- 被災地の復興を支援し、復興に向かう姿を世界に発信
- 大都市における地震等の自然災害への対策の重要性や、防災に関する情報や知見を国内外の都市と共有

### ⑦ 被災地支援・復興の発信

#### <スポーツ交流>

- 被災地の子供たちを東京に招待し、合同練習や交流試合等を行うスポーツ交流を実施
- 青森から東京までをつなぐ「未来（あした）への道1,000km縦断リレー」を実施
- 被災地にトップアスリートや一流指導者を派遣してスポーツ教室を開催



【東京国際ユース（U-14）サッカー大会】



【未来（あした）への道1,000km縦断リレー】

#### <被災地復興支援情報の発信>

- 様々な機会を通じて「復興オリンピック・パラリンピック」を発信
  - ・復興のシンボルとなる樹木の有明アリーナへの植樹
  - ・被災地の中高生からのメッセージを載せた「東京2020復興のモニュメント」の国立競技場横への設置等



【東京2020復興のモニュメント】

- 特設WEBサイト「みんなの東京2020応援チャンネル」において、被災地の今の姿を紹介する動画配信を実施

#### <道で咲かせよう東北の花プロジェクト>

- 東日本大震災の復興支援等を目的に、東北で育てた花の都道への定植イベントを実施
- 大会で野球・ソフトボール予選会場となった福島県宮あづま球場周辺に花苗の定植を実施



【都庁前での花苗の定植】



【福島県宮あづま球場周辺での花苗の定植】

#### <風化防止イベント「復興応援」>

- 被災地の県産品や観光PRを行うイベント「ふくしま⇄東京キャンペーン」等、風化防止・復興イベントを実施



【ふくしま⇄東京キャンペーン】

- オリンピック聖火リレー到着式では福島県産のひまわりの装飾、パラリンピック聖火リレー都内集火式では岩手県の大漁旗と宮城県の七夕飾りの装飾を実施



【聖火リレー到着式での福島県産のひまわり】



【都内集火式での岩手県の大漁旗と宮城県の七夕飾り】

- TMCにおいて、被災地の今の姿を紹介する動画配信や復興に関するパネル展示を実施

### ⑧ 東京の防災力・災害対応力の発信

#### <インフラツアー>

- 2017年度より、東京を支えるインフラやまちづくり技術の理解、体験の機会を幅広く提供するため、海外の技術者や政府関係者等向けにインフラツアーを実施



【JICA研修員向けのインフラツアー】



#### <防災に関する国際会議を通じた都市間交流>

- 世界各都市における災害対策をテーマに「都市の防災フォーラムTokyo」を開催。世界的な都市災害の激甚化・頻発化を踏まえ、大都市における災害への対策の重要性を世界に発信



【都市の防災フォーラムTokyo（2019年5月）】



#### <東京の防災力の発信>

- 有識者によるTMCのオンライン講演で、「水害に強い東京に向けた分野横断的取り組み」を国内外に発信

大会後の  
主要事業展開

- 大会で紡いだ被災地とのつながりを活かし、スポーツ等を通じた被災地との交流を実施
- 各県において復興オリンピック・パラリンピックのレガシーとして活用するため、「東京2020復興のモニュメント」を被災地に寄贈
- 被災地産品の魅力を都民に広く発信し、更なる風化防止・復興応援に取り組む

大会後の  
主要事業展開

- インフラツアーなどを通じて、東京を支えるインフラやまちづくりにおける先進的な技術力を積極的に世界に発信

# Ⅳ 環境 ～ゼロエミッション東京の実現に向けて～

## 東京2020大会までの取組

- 国際会議等を通じて、世界の脱炭素化に向けてリーダーシップを発揮
- 大会時の選手村での水素活用などを通じ、水素エネルギーの普及を推進
- 大会に向け、暑さ対策や快適な都市環境の実現を推進

### ⑨ 環境施策に関する都市間交流の推進

#### <国際会議等を通じた都市間交流>

- 気候危機行動ムーブメント「TIME TO ACT」を展開し、脱炭素化に向けた具体的な行動の加速を世界に発信



【TIME TO ACTロゴマーク】

- > 2021年2月：キックオフ会議
- > 2021年10月：CLIMATE ACTION FORUM

- 2021年4月、米国主催「気候リーダーズサミット」に出席し、気候変動問題における都市の行動の重要性と、キャップ&トレード制度等の都の取組を発信



【気候リーダーズサミット】

- 大会期間中の8月7日、パリ等の4都市の参加のもと国際会議「Re StaRT」を開催  
人々のマインドを回復させながら、未来に向けた復興を目指す「**サステナブル・リカバリー**」の実現を世界に提唱



【Re StaRT ロゴマーク】



【記念撮影】

### ⑩ 水素エネルギー利活用の推進

#### <選手村での水素エネルギー利用>

- 福島県産の再生可能エネルギーを用いて製造された水素を、大会時の選手村の電力供給に活用
- 大会後の選手村の活用について、PR動画やパンフレットを作成し、TMC等で国内外に発信



【選手の休憩施設（水素で発電した電力をマッサージチェアやモニター等で活用）】 【大会後の選手村のイメージ】

#### <水素エネルギー普及促進（燃料電池バス含む）>

- 燃料電池自動車や水素ステーションの普及促進
- > 燃料電池バス：**累計85台導入**（2020年度末）
- > 燃料電池自動車：**累計1,573台普及**（2020年度末）
- > 水素ステーション：**累計21か所整備**（2020年度末）



【東京晴海水素ステーション】

- 民間企業や自治体等と連携した「Tokyoスイソ推進チーム」にて、水素エネルギーの普及を促進

### ⑪ 低炭素・快適性等を備えた都市

#### <東京ゼロカーボン4デイズ in 2020>

- 開閉会式の4日間、都内の全てのCO<sub>2</sub>排出量ゼロを実現  
(都キャップ&トレード制度 対象事業者から提供のCO<sub>2</sub>削減クレジットによるオフセット) 【インフォグラフィック】



#### <再生可能エネルギーの普及促進>

- 武蔵野の森総合スポーツプラザ等の大会施設で太陽光発電や地中熱利用ヒートポンプ等の再生可能エネルギーを積極的に導入

#### <暑熱対策（クールエリアの創出等）>

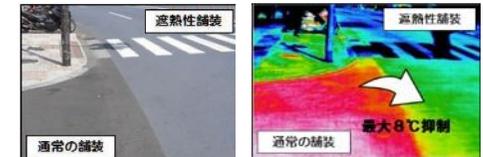
- 競技会場周辺等において暑さを緩和するクールエリア・クールスポットを創出



【クールエリアの創出（例）  
（微細ミスト及び熱線反射フィルム）】

#### <暑熱対策（遮熱性舗装など）>

- 都道や駅前広場において、路面温度上昇を抑制するため、遮熱性舗装・保水性舗装を整備
- > **累計約157km整備**（2020年度末）



【遮熱性舗装による路面温度低減効果】

主な事業展開  
大会後の

- 「TIME TO ACT」等の活動を通じ、世界各都市と連携して世界の脱炭素化に貢献
- 「Re StaRT」を出発点に、サステナブル・リカバリー推進に向けた新たな国際ネットワークを立ち上げ

主な事業展開  
大会後の

- 環境先進都市のモデルとなる都市の実現に向け、大会後の選手村地区を整備
- 水素ステーションの整備拡大や商用F C車両の実装化等、水素利用を加速させる
- 再エネ由来水素の利活用に向けた基盤づくりを推進

主な事業展開  
大会後の

- 新築住宅等の太陽光発電の設置義務化などの検討や、断熱・省エネ性能を高めた東京ゼロエミ住宅等の普及
- キャップ&トレード制度の強化・拡充等
- 暑さ対策の社会への定着に向け、区市町村等と連携した様々な暑熱対策を推進
- 遮熱性舗装等の整備を継続して推進

## 東京2020大会までの取組

- 先端技術の活用に向けた様々な社会実装への支援を行うとともに、日本・東京の技術力を国内外に発信
- 優れた技術や製品の開発・早期事業化を促進

### ⑫ テクノロジー・ショーケース

#### <自動走行システムの社会実装に向けた取組の促進>

- 2018年度より自動運転移動サービスのビジネスモデル構築に関する社会実装を支援
- 2020年度実施：**2件**（西新宿、東池袋）



【西新宿における社会実装に向けた取組  
（自動運転タクシー）】

【東池袋における社会実装に向けた取組  
（デリバリーサービス等を行う  
自動運転車）】

#### <ロボットの社会実装に向けた取組>

- 2019年度及び2020年度の2か年度にわたり、「Tokyo Robot Collection」を実施し、ロボットを活用した新しい社会実装モデルをショーケース化

（ショーケースの例）

- 宿泊療養施設の感染症対策に向けた取組
- 都市型複合施設のニューノーマル実現に向けた取組



【客室への物資搬送ロボット】



【AIによるコミュニケーション  
ロボット（多言語対応）】

### ⑬ 都市づくりの情報発信

#### <都市づくりの情報発信>

- 東京の都市づくりの「歴史」と「未来」を知るためのバーチャル展示コンテンツを作成し、WEBサイトやTMCを通じて国内外に発信



【Tokyo Time Scope WEBサイト】

- 「歴史」編  
長い歴史と様々な文化を融合し、築き上げられてきた東京の都市づくりの変遷を振り返り



【Tokyo Time Scope 歴史編】

- 「未来」編  
様々な魅力にあふれ、先進的な発展を続ける東京が進化しつづけていく様子を紹介



【Tokyo Time Scope 未来編】

### ⑭ パラスポーツ用具の開発

#### <パラスポーツ用具の開発>

- パラスポーツ用具の開発事例に関する講演、企業と競技団体が交流するセミナーを開催
- 障害者スポーツに供する優れた技術・製品開発に取り組む中小企業等を支援
- 大会では、新たに開発した競技用車いす等を使用したパラアスリートがメダルを獲得

（都が開発を支援した障害者スポーツ用具）



【バドミントン用車いす】



【スポーツ用義足】



【陸上競技用車いす】

主な事業展開  
大会後の

- 自動運転について、2023年度の社会実装を目指し、先行的に5Gを整備している西新宿エリアにおいて事業を推進

主な事業展開  
大会後の

- デジタル技術を活用して東京の都市開発の強みや都市の魅力など都市づくりに関する情報を継続的に国内外に発信

主な事業展開  
大会後の

- 障害者スポーツ用具の開発に加え、様々な人が生活の場で利用できる用具の製品化や販路の開拓に取り組む企業等への支援を展開

東京2020大会までの取組

- 児童生徒等100万人に対して6年間にわたりオリンピック・パラリンピック教育を展開
- 交通需要マネジメント(TDM)、テレワーク及び時差Bizへの都民・事業者の協力等により、交通量が減少等した結果、円滑な大会輸送を実現

⑮ オリンピック・パラリンピック教育の推進

<オリンピック・パラリンピック教育の推進>

- 「4つのテーマ」と「4つのアクション」を組み合わせた「4×4の取組」を通して多様な教育活動を展開し、5つの資質を重点的に育成
- **約2,300校**の都内全公立学校で教育活動を展開



- 重点的に育成すべき5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクトを実施



【東京ユースボランティア】

地域やスポーツ大会、福祉施設等で発達段階に応じたボランティア活動を実施



【スマイルプロジェクト】

障害者スポーツの観戦・体験、スポーツを通じた特別支援学校と地域の学校等との交流など



【夢・未来プロジェクト】

子供たちがオリンピック・パラリンピアン等と直接交流



【世界ともだちプロジェクト】

大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展

- 大会期間中においても多様な取組を実施

- ・ **約1万人**の子供たちがパラリンピック競技を観戦
- ・ 先端技術を活用し、障害や病気により会場での観戦が困難な特別支援学校の子どもたちに、大会をリアルに楽しめる疑似体験の機会を提供 (**13校**)
- ・ 子供たちからアスリートへ応援動画を送り、アスリートから御礼動画等が返されるなど、間接的な交流を展開 (**約280校**)

⑯ スムーズBizの推進

<スムーズBizの推進>

- 大会期間中の交通混雑緩和を見据え、テレワークや時差Biz、交通需要マネジメント(TDM)等の取組を「スムーズBiz」として一体的に推進



【「東京2020大会期間中のお願い」ポスター】

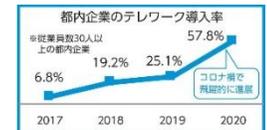


【スムーズBizロゴマーク】



【「ARIGATO～そして、これからも。」ポスター】

- (テレワーク)
- TOKYOテレワークアプリを活用し、周辺のサテライトオフィスの位置情報や、セミナー、実践事例等の役立つ情報を発信
- 都内企業のテレワーク導入率：**57.8%** (2020年)



【都内企業のテレワーク導入率】

- (時差Biz)
- 混雑の見える化について、各鉄道事業者の最新情報を集約して時差Bizホームページに掲載
- 時差Biz：**2,062社等が参加** (2021年11月12日時点)



【時差Bizロゴマーク】

- (2020TDM推進プロジェクト)
- 参加企業・団体に無料のコンサルティングを実施し、各社の状況に合わせた対応を提案
- 2020TDM推進プロジェクト：**910団体・52,202社・事業所が参加** (2021年9月5日時点)



【2020TDM推進プロジェクトロゴマーク】

大会後の  
主な事業展開

- 5つの資質を伸ばすために取り組んできた活動を、「学校2020レガシー」として、大会後も長く続く教育活動に発展
- 生徒向けボランティア情報の提供、パラスポーツ指導者講習会、アスリート等の派遣、芸術・文化の鑑賞・体験、大使館等とのコーディネート等を実施

大会後の  
主な事業展開

- 大会も契機に進んだテレワークやオフピーク通勤、物流の効率化が社会に定着するよう、取組を継続的に推進する